

1 共に学び合う児童とは、どんな姿か

「ICTツールを活用しながら、互いに協力し、高め合い、共に成長していく姿」

(本校の資料や教職員の声から)

2 課題感

① 従来の一斉授業からの転換

従来の知識伝達型の授業では、児童は受け身になりがちで、主体的な学びや、互いに影響し合いながら学ぶ姿勢が育ちにくいという課題がありました。先生方は、子どもたちが「ともに学び合う」主体的な学習者へと成長するため、研修を通して新たな授業の形を模索しています。

② ICTツールの効果的な活用

ICTツールは、子どもたちの学びを大きく広げる可能性を秘めていますが、その効果を最大限に引き出すためには、教職員のICT活用スキル向上と、児童のICT活用能力の向上が不可欠です。研修を通して、教職員はICTを効果的に活用した授業実践を学び、児童はICTツールを使いこなす力を身につけていく必要があります。

③ 子どもたちの学習意欲を高める

授業に興味・関心を持たず、学習意欲が低い児童に対して、どのように学びに向かう姿勢を育むかは、重要な課題です。

先生方は、ICTツールを活用した視覚的に分かりやすい教材や、子どもたちの興味関心を引くような教材作り、思考ツールを用いた深い学びの提供など、様々な工夫を通して、子どもたちの学習意欲を高める方法を模索しています。

④ 個別最適な学びと協働的な学びのバランス

児童一人ひとりの学習ニーズに対応した個別最適な学びと、子どもたちが互いに協力し合い、学びを深める協働的な学びのバランスをどのように取るかは、難しい課題です。

3 先生方が目指してきた授業改善

本校の教職員が目指している授業は、一言で言うと

「子どもたちが主役となって、自ら考え、表現する、活気あふれる授業」

子どもたちが主体的に活動し、深く考え、表現する力を育む授業です。教職員が講義型の授業から脱却し、子どもたちが自ら学びを創造していく授業スタイルへの転換を図るような授業改善が見られます。

今年具体的に見られた手立て

- ・ ICTツールを駆使した、興味関心を高める工夫:
- ・ 思考ツールを活用した、深い学びを促す工夫
- ・ 多様な表現方法を取り入れた学びの深化と共有を促進する工夫
- ・ 個別最適な学びと支援

3 共に学び合う児童を育成するための教職員の手立て例

1. 積極的なICTツール活用による、協働学習の促進

- ・ロイノートやオクリンクを活用した意見交換・学び合い
- ・共有ドキュメント作成による共同作業
- ・オンライン上のグループチャットを活用した情報共有・交流

2. 思考ツールを活用した、多様な視点からの思考と対話

- ・思考ツールを用いたグループワーク
- ・思考ツールを活用したプレゼンテーション
- ・思考ツールを用いた自己評価・相互評価

3. 多様な表現方法を取り入れた、学びの共有と深化

- ・動画や音声、写真などを活用したプレゼンテーション
- ・デジタルポートフォリオの作成
- ・オンライン展示会や発表会の実施

4. 互いを認め合い、高め合う学習環境づくり

- ・グループワークにおける役割分担
- ・ピアサポート体制の構築
(困っている児童を助け合う、教え合う文化を醸成する)
- ・多様な意見を尊重し、認め合う雰囲気づくり

4 成果と課題

成果

ICT活用能力の向上と児童の主体的な学習意欲の向上

課題

ICT活用深化と協働的な学習の充実